公民部会

研究主題　「生徒による授業評価を活用した公民科の指導内容・方法の改善」

Ⅰ　主題設定の理由

平成 16 年度から、すべての都立高校において生徒による授業評価が導入された。これは、東京都教育委員会が推進する授業改革の一環に位置付けられ、「授業の受け手」である生徒からの意見を直接聞くことによって、授業をより良くしていくための取組である。そして、この授業評価を基に各学校では校内研修等で組織的な授業改善に取り組み、指導内容・方法の一層の充実を図ることが期待されている。

平成１５年度の「『いい授業しようよ』生徒による授業評価開発委員会」では、１８０校の試行校での実践を基に研究開発が行われ、その成果が発表された。しかし、本格実施は今年度からであるため、各学校では、生徒や学校の状況等に応じた評価項目づくりや結果分析の活用方法等について創意工夫をしているのが現状だと思われる。

本部会では、生徒による授業評価を活用した公民科の指導内容・方法の改善について、開発委員の勤務校における実施例に即しながら具体的に研究を深め、各学校での授業改善のための課題解決の方策等も明らかにすることを目指し、この研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の視点

生徒による授業評価はアンケート形式で実施されるが、その結果は教員と生徒の双方にとって有益に活用できる。このことを念頭に置き、以下の３項目を研究の視点とした。

１　学習指導要領の趣旨を踏まえ、公民科の教科目標と評価規準に即した授業評価の実施について研究する。

２　評価の結果に基づいて指導を改善し、さらに、新しい指導の成果を再度評価すること（いわゆる「指導と評価の一体化」）を念頭に置き、本制度における効果的な授業改善の方策について研究する。

３　生徒による授業評価は、各学校が組織的に授業改善を進めるための指標であるが、同時に生徒自身が自らの学習を振り返る機会としても活用できる。生徒及び学校の状況が多様化している現状を踏まえつつ、評価形式や内容の検討や評価結果の分析等についての研究を行う。

Ⅲ　研究の方法

生徒による授業評価の本格実施の初年度という現状を認識し、本部会での研究成果がより多くの学校で活用されるよう、以下の３項目を研究の方法にした。

１　開発委員が勤務する学校で今年度実施した生徒による授業評価（第１回目）を持ち寄り、評価項目を検討し、結果を分析する。

２　各学校における第１回目の授業評価結果から把握できる課題を中心に、具体的な授業改善に取り組み、第２回目の授業評価結果の推論を立てる。

３　１．２の手順を踏まえた上で、生徒の主体的な学習を重視した研究授業を行い、公民科における授業改善について研究を深める。

Ⅳ　生徒による授業評価を活用した授業改善の事例

１　A高校の事例

(1)　授業評価アンケートとその結果

①　校内でのアンケート実施状況

１回目は９月中に教務部作成の汎用性の高いアンケートに加え、個人作成の項目を工夫して授業時間冒頭に実施した。結果は、教科でまとめてから教務部で整理し、資料化して校内研修等で活用した。また、第２回目を１月以降に実施し、幅広い活用をめざす。

②　本授業のアンケートの概略とねらい

ア　生徒の直接の意見や考えを反映させることができるよう記述項目を入れた。これは項目採点型のアンケートでは浮かびにくい意見を出してもらい、活用するためである。

イ　生徒が答えやすいように、比較しやすい分野は段階ごとの評価をさせた。

ウ　教員の授業内容の客観的把握に役立てるとともに、生徒の授業への参加意識を高めることも大切な目標である。

③　本授業アンケートの各項目　（Ｂ５の大きさで１枚程度）

ア　教員の授業方法や定期テストについて、以下の各項目を４段階で記入

・進度　・説明　・板書　・時間の使い方　・資料の使い方　・考査の程度
・冒頭の生徒によるスピーチ　・教員による新聞の解説　・レポートの提出

（評価点は、４は「よい」・３は「まあよい」・２は「普通」・１は「改善して欲しい」。以下同様。）

イ　授業の単元に対する生徒の理解度について、以下の各項目を４段階で記入

・大衆社会　・情報化社会　・国際社会の中の人間　・少子・高齢化
・青年期の生き方　・民主政治の原理としくみ　・世界の政治　・政党　・行政
・司法　・政治参加

ウ　授業に対するの生徒自身の意欲や姿勢について、以下の各項目を４段階で記入

・ノートの利用　・考査の準備　・授業への集中度

エ　上記①の項目に関する生徒の自由記述

オ　イとウで低い項目の理由を自己分析

カ　授業を通して深く関心を持ったものを記述

④　アンケート結果と分析　（●は科目での改善、校内研修で検討するべきとした回答）

a　③のアの項目について回答パーセント表　（%）

項目	4	3	2	1	項目	4	3	2	1	項目	4	3	2	1
進度	57	35	8		考査	41	35	24		板書	66	23	9	
説明	45	33	20		スピーチ	22	25	37	9	時間	50	24	26	
資料	40	28	28	3	新聞	64	21	10	6	レポート	20	14	59	7

b　授業への意見　**黒板ポイントがわかりやすい。　毎回の新聞重要紙面の説明がよい。**
●もっと生徒参加型を取り入れて欲しい。　●板書が多い。　●板書が少ない。

c　良かった理由　**ノートを活用しテストの準備ができた。関心・興味深かった。**

d　良くなかった理由　**●興味や関心がなかったから。●他の教科に時間がとられたから。**

e　授業から発展した事項　**ニュースや新聞に敏感になり、自分で調べるようになった。**

f　その他　**●授業は、やや一方的な所がある。　●アンケートは記名でもいいのでは。**

⑤　アンケートから分かったこと

ア　授業は板書の評価が高い。**課題は、生徒参加型を取り入れた授業の工夫である。**

イ　テストに備えるために、ノートをよくとって自分なりに完成させている生徒が多い。

ウ　授業中の新聞の解説などをを通じて、時事問題に関心が深まった生徒がいる。

⑥　第２回目のアンケートの工夫

１回目との生徒の授業への満足度、取組度の比較が分かる項目を工夫したい。

(2)　改善した学習指導案

①　**単元名**　　１学年　現代社会「国民の政治参加」

②　**単元の目標**　　選挙制度、仕組みの理解　政治参加としての選挙の重要性の認識

③　**本時のねらい**　基本的な選挙の仕組みを理解し、政治参加と選挙の意義を考察できたか。

④　**単元指導計画**

ア 世論と政治参加（１時間）　イ 選挙と政治参加（本時：１時間）　ウ 地方自治（１時間）

⑤　**本時の指導案（斜体字の部分が具体的に改善した点）**

	学習項目	生徒の活動	留意点	評価の観点
導入 10 分	国民が国や地域の政治に参加する方法 国政選挙の方法	*選挙、住民運動、住民投票、デモ行動、署名活動などがあるが、一般的には選挙が最も多く使われることを考察、発表し合う。* *国政選挙における衆議院と参議院のシステムの違いを答える。*	様々な場面を工夫し、ヒントを与えて想像させながら考えさせる。 展開で学ぶ選挙方法の違いに気付かせる。	今までの学習を応用して答えを出しているか。 （思考・判断）
展開 30 分	衆参各議院選挙の仕組みの違い ドント方式による選挙	*拘束と非拘束式名簿、重複立候補小選挙区、政党名の選挙などを資料から考察し、発表し合う。* *最近の衆議院議員選挙等を利用して選挙広報などを見て候補者に投票する(簡便な模擬投票)。*	事項の説明については資料を工夫し、簡便に行う。 資料を見ながらも時間がかかるので、例示的にする。	両者の違いを理解できたか。（知識・理解） 自分の意思で投票したか。（関心・意欲・態度）
	日本の選挙の問題点	*選びたい人が必ずしもいない場合にどうするか、考察し発表する。* *棄権、白紙投票の是非を考える。資料集から投票率の低下、一票の格差、買収選挙など日本の選挙の課題を考察し、発表し合う。*	すぐに答えがない場合は、資料集等の参考ページを示し、*近い座席同士での討論も適宜入れて、考えを述べさせる。*	選挙が国民にとって身近になりにくい点があることに気が付いたか。 （思考・判断）
	選挙の課題の改善方法	*解決方法を考察するために、近くのグループ内で「選挙を義務化している国等の資料」を活用して意見交換し、発表し合う。*	*新聞等を利用して選挙義務化、棄権罰則化等の資料を配布し、説明する。*	資料を活用し、グループで意見を出しているか。 （技能・表現）
まとめ 10	選挙の重要性	*選挙制度がない場合、どうやって国民は政治に対する意思を示すことができるのかを考え、選挙の重要性を考察し、発表し合う。*	ヨーロッパの革命や江戸時代の一揆についても考えさせる。	国民の重要な権利であることに気が付いたか。 （思考・判断）

⑥　**改善したところ**

アンケートにもあった**「生徒参加型学習の授業への取り入れ」**を取り入れた形での授業案を作った（斜体字部分）。質問や想定される答えへの応答を用意しておき、義務化など両論がはっきりする資料を作成し生徒に考えさせるなどの工夫をした。

⑦　**今後の工夫**

今後は、グループ学習による発表やディベートを使っての討論型授業なども計画的に取り入れていくことによって、この単元を生徒に多角的な視野から考察させたい

2　B高校の事例

(1)　授業評価アンケートとその結果

①　校内で実施したアンケート

○自分に対して（１学期間を通して）	
1	あなたは授業に集中して取り組みましたか？
2	あなたは授業の開始時間に遅刻しないようにしてきましたか？
3	教科書・ノート・教材などを忘れずに持っていましたか？
4	ノートをきちんととっていましたか？
5	授業中に、私語・居眠りなどはしませんでしたか？
○授業に対して（１学期間を通して）	
1	あなたは授業の内容に興味・関心が持てましたか？
2	先生の熱意は感じられましたか？
3	先生の説明はわかりやすかったですか？
4	先生の声の大きさ、話すスピードは適切でしたか？
5	先生は生徒への注意を適切に行っていましたか？
6	板書の書き方・まとめ方はわかりやすかったですか？
7	授業の難易度は、あなたにとって、適切でしたか？
8	授業の進度は、あなたにとって、適切でしたか？
9	配布された資料は役立ちましたか？

1	そう思わない
2	あまりそう思わない
3	いくらかそう思う
4	そう思う

②　アンケートの結果と分析

「現代社会」（３年生全員が履修）について１学期の期末考査が終了した時点で３年生全員を対象に実施した。全員が履修するので、この科目に対する興味・関心の度合いは生徒個人により差が大きい。教科ごとに設定した 14 の項目について（全教科共通の質問項目が７つほどある）４段階で評価する形式をとり、さらに自由に意見を記述できる欄も設けた。

授業に対する関心や板書のまとめ方等、基本的な質問が多いこともあって、生徒にとっては答えやすかったと思われる。基本的な事項を問うだけのアンケートであったが、集計結果をみると生徒が感じていることが明らかになり、授業改善の方向が見えてくる。

「説明はわかりやすかったか」「板書の書き方・まとめ方はわかりやすかったか」の質問に対しては「そう思う」が約６割、「いくらかそう思う」を含めると９割以上の生徒が肯定的な評価をしている。これまで自分自身の授業改善は、難解な事項をいかにわかりやすく教えるかという点を重視していたので、一定の成果があったと思われる。一方で、「授業内容に興味・関心を持てたか」については「いくらかそう思う」が６割いるが「そう思う」と答えた生徒は２割強しかいない。また、「先生は生徒への注意を適切に行っていましたか」との質問に対して「あまりそう思わない」と答えた生徒が３割弱と意外に多かった。自由記述にも、「寝ている生徒をもっと注意して」等授業に乗り切れていない生徒に対する働きかけが不十分だとの記述があった。

学習意欲の点で大きな差のある生徒集団の中で、積極的でない生徒をいかに授業へ引き入れていくのかが課題である。そのためには、一人一人の生徒が授業に対する主体性、興味・関心を持続させることができるように、授業内容・方法について工夫を重ねていく必要がある。また、個々の生徒に対する声かけや注意、また生徒が発言する機会をこれまで以上に増やしていかなければならない。この２点を今回の授業改善の指針とした。

(2)　改善された学習指導案

①　単元名　３年生　現代社会「市場機構とその限界」

②　単元の目標

自由な生産、消費が認められている資本主義経済において市場機構の果たす役割とその限界について正しく理解し、私たちの生活する経済社会で生じる問題を考え、それを解決しようとする態度と能力を身に付ける。

③　本時のねらい

市場経済の中核である価格決定のメカニズムについて、需要側と供給側双方の視点に立って考え、理解を深める。

④　単元指導計画（ア～エ各１時間）

ア　資本主義経済の特徴　イ　市場価格（本時）　ウ　価格の自動調節機能　エ　市場機構の限界

⑤　本時の学習指導案（斜体字が具体的な改善点）

	学習事項	学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導入	・私たちの需要	・*世の中にどのような需要があるのか知るために、まず私たちにどのような需要があるのか書き出す。*	・*取りかかりの遅い生徒に対して声かけを行い、記述を促す。*
展開	・買い手（需要者）の行動 ・売り手（供給者）の行動 ・均衡点	・*書き出された中から２～３の商品（モノあるいはサービス）を選び、それぞれ値段を変えつつ、どの値段であれば買ってもよいか全員に聞き、統計をとる。* ・*統計の結果をグラフ上にまとめ、需要曲線にする。* ・*同じ商品について、今度は売り手の立場に立って同様の統計を取る。* ・*統計の結果をグラフ上にまとめ、供給曲線にする。* ・需要曲線と供給曲線とを重ね合わせ、交点が示す意味を考える。	・選ぶ商品は調達がしやすく、生徒でも価格の見当がつきやすいものにする。 ・統計の取り方、手順を確認し、活用している。（技能・表現） ・グラフの作成の仕方について指導する。 ・市場機構の中での経済主体の行動に関心をもっている。（関心・意欲・態度） ・経済主体の行動とグラフ上に示されていることとの関係について考察している。（思考・判断）
まとめ	・均衡価格と均衡数量	・需要曲線と供給曲線の重なる点において均衡価格（市場価格）と均衡数量が決定されることを理解する。	・市場価格が決定する仕組みについて理解し、その知識を身に付けている。（知識・理解）

⑥　改善点

生徒が主体性をもって授業に参加するために、導入部分からまず生徒に考えさせる課題を与えた。展開についても、作業的な要素を取り入れ、生徒自身が結果を予測しながら取り組める内容にした。生徒の活動に対する助言、誘導という形で生徒に対する働きかけの機会を増やした。

⑦　考察

市場価格の決定のメカニズムを具体的に理解することは、経済事象を自分の問題として考えていく上で不可欠である。生徒自身に考えさせる、気付かせることを重視することによって、今後の学習に対する意欲を向上させていくことができる。

３　C高校の事例

(1)　授業評価アンケートとその結果

①　校内で実施したアンケート（抄）

	設　　問	評価
1	トロイの木馬・パンドラの箱のエピソードを紹介したが興味が持てたか。	A・B・C・D
2	自然哲学者を何人か紹介したが、興味が持てたか。	A・B・C・D
3	ソフィストを何人か紹介したが、興味が持てたか。	A・B・C・D
4	ソクラテスのエピソードを幾つか紹介したが、興味が持てたか。	A・B・C・D
5	プラトンのエピソードを幾つか紹介したが、興味が持てたか。	A・B・C・D
6	アリストテレスのエピソードを幾つか紹介したが興味が持てたか。	A・B・C・D
7	この授業を通して、ギリシャ思想や文化に親しみが持てたか。	A・B・C・D
8	授業の中での、ギリシャ思想や文化は分かりやすかったか。	A・B・C・D
9	授業で学んだギリシャ思想は、あなたにとって今後役に立つと思うか。	A・B・C・D

A	している・持てる・感じる・そう思う・問題なし・よい
B	だいたいしている・少し持てる・少し感じる・まあまあそう思う・やや気になる
C	あまりしていない・あまり持てない・あまり感じない・あまり思わない・かなり気になる
D	していない・全く持てない・全く感じない・全く思わない・よくない・問題がある

②　アンケートのまとめと分析

教務部作成の汎用性の高いアンケートを全校的に実施。また、上に掲載した個人作成の科目や単元に即したアンケートを行った。実施時期は、１学期終了時。授業内容では 86.9 %の者が、授業方法では 89.5 %の者が、指導教員では 92.1 %の者が、評価方法では 86.9 %の者が、「満足している」か「ほぼ満足している」との肯定的回答を残した。しかし、取り組むべき課題も幾つか鮮明となったので、以下に列挙する。

ア　予習を「している」または「だいたいしている」と回答した者は 7.9 %。復習に関しては 26.4 %との結果であった。一応、授業の最初と最後で、前回の授業をしっかりと踏まえた導入と次回への授業に興味を高める予告を盛り込む改善をしたが、倫理という科目の性格上、行う必要はないと考えるか、倫理なりの予復習に取り組ませるのか、どういう観点から行うのかを検討する必要がある。

イ　授業方法では、視聴覚教材の使用を希望する者が 60.5 %も存在した。倫理という科目の特性を理由に、視聴覚教材への工夫を怠ってきたことを痛感し、とりあえず絵や写真の多い資料に差し替えたが、今後はビデオ教材等への工夫も必要と思われる。

ウ　肯定的な回答を得た設問に対して、そこで終わらせるのでなく、さらに細かい部分まで尋ね、より満足している部分と、未だ不満足な部分を明確にした方が、具体的に授業に反映させられるのではないか。次回の授業アンケートの項目や構造で工夫を加えていきたい。

エ　アンケート結果では、ヘブライズムに対する興味関心よりもヘレニズムのそれの方が高いという予想外の結果を得たが、教員側の予想に反した結果の場合、それを再度生徒に尋ね、その反応の確認作業を通じてこそ、一層効果的な授業改善が図られるのではないか。また、各回答への更なる質問項目を設定すること(アンケートの複線化)により、一度のアンケートでより詳細で具体的な回答が得られるよう、アンケート構造自体に工夫を施すことも、次回で試みてみたい。今回は、山上の垂訓やまとめの部分で、イエスの精神性や内面性を特に強調することにより、イエスの教えから、思想そのものを中心に学ばせるよう改善した。

(2)　改善した学習指導案

①　単元名　　1年生　倫理「イエスの誕生とイエスの教え」

②　単元の目標

キリスト教とそれを生み出したユダヤ教を理解し、キリスト教の精神を理解させ、キリスト教の現代的意義をとらえさせる。

③　本時のねらい

イエスの人生と教えがいかに内面性・精神性を重視しているかを理解する。

④　単元指導計画

ア　ヘブライズムの歴史と特色…旧約聖書を通じて、ヘブライ文化に親しませる。（1 時間）

イ　イエスの誕生とイエスの教え…教えの意義と斬新さに気付かせ、内面性・精神性を理解する。（本時：1 時間）

ウ　イエスの死の意味…パウロの思想を中心に原罪と贖罪（しょくざい）信仰を理解させる。(1 時間)

エ　現代に生きるキリスト教…マザーテレサやキング牧師を通して、現代的意義をとらえさせる。(1 時間)

⑤　本時の学習指導案（斜体字が具体的な改善点）

時間	学習項目	学　習　活　動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10 分	*ユダヤ社会の状況*	*前回の学習に加えて当時のユダヤ社会の状況を学習する。*	*ユダヤ社会の問題点に注意を向ける。*	ユダヤ社会への関心が高まったか。（関心・意欲・態度）
展開 35 分 10 分	律法主義への批判	1.律法主義…当時のユダヤ社会で律法とはどのような存在であったかを学び取る。 2.律法主義へのイエスの態度…安息日の例を出して考える。	資料の解説には時間をかけて丁寧に。 イエスが、形式よりも内面性や精神性をいかに重視していたかに気付かせる。	資料から律法を理解できたか。（技能・表現） 教えの内面性・精神性が理解できたか。（知識・理解）
10 分	神の愛 (アガペー)	無差別･無償の愛であることを理解する。	当時の常識といかにかけ離れていたかを強調する。	神の愛への理解。（知識・理解）
10 分	山上の垂訓	*山上の垂訓を解説。幸い・隣人愛…内面的・精神的幸福を強調し、イエスの目的とした救済とは、社会的弱者への精神的救済であったことに気付く。*	*奇跡話を奇跡としてとらえず、その中に隠されている意図を読みとらせる。*	教えの根幹の内面性・精神性をとらえることができたか。 (思考・判断)
5 分	イエスの黄金律	「自分がしてもらいたいと思うその通りに、他人にもせよ」の内容を理解する。	時間をあまりかけずに説明する。	イエスの黄金律への理解。 (知識・理解)
5 分	まとめ	*イエスの教えの革新性といった観点からまとめる。次回の授業への興味関心をできるだけ高めるような予告を聞く。*	*イエスの思想と、当時のユダヤ社会の常識とのギャップをしっかりと強調する。*	

⑥　改善を図った内容等

ア　授業の最初と最後で、前回授業を丁寧に踏まえた導入と生徒の興味を高めるような次回の予告を盛り込むことで予習・復習不足を補う。

イ　絵や写真が多く含まれた視覚的興味・関心を引く資料に差し替えた。

ウ　山上の垂訓やまとめの部分で、イエスの精神性や内面性を強調することにより、思想それ自体を学ばせるよう改善した。

⑦　考察　歴史の説明に偏り過ぎず、教えの思想性を中心に理解させることが重要である。

4　D高校の事例

(1)　授業評価アンケートとその結果

①　校内で実施したアンケート（抄）

学校・授業等についての自由意見

①学校全体の様子はどのように考えますか。
②クラス・学年等に関する具体的な要望はありますか。
③授業について、あなたが教師の立場であったら、良い授業を継続し展開するためにはどのようなアイディアが考えられますか。また、理想の授業はどのような授業ですか。
④特に、公民科政経の授業に関して要望等、また、よいと思うことがあれば、書いて下さい。

授業で印象に残ること、
うれしかったことなど、
思い出すことがあれば、
そのことを記入して下さい

②　アンケートの結果と分析

「生徒による授業評価」は、本校３年生全員と選択科目「現代社会」の受講者を対象として実施された。アンケート用紙は、教務部が作成した本校共通の書式を使用して実施、さらに教科担当者が作成した上記アンケート用紙も併用した。実施時期は①必修「政治・経済」は７月の第一学期の期末考査終了後に行い、②選択科目「現代社会」は９月の第二学期の最初の授業で実施した。アンケートは４項目から選択する形式と自由記述欄で構成した。

アンケート実施で判明した事項として、授業への参加度を示す項目の回答割合は、概ね半数以上に達した。また「授業に教科書・ノートを持参するか」との問かけには、８０％以上の高い数値を示し、「授業が定刻に開始するか」との設問にも同様な数値が現れた。ただし、「授業を理解するか」、また「授業の中で質問を積極的にするか」など、生徒が主体的に授業に参加する事項には、低い数値が見られ、「授業内容に興味・関心がもてたか」については、回答は、ばらつき、消極的な部分も認められた。結論的には、授業や学習活動に生徒が消極的で受動的である本校の実態も読みとれた。しかし、選択科目では少人数による授業進行の状況を反映してか、必修科目より興味・関心の度合いはおおむね高く、否定的な回答はなかった。また「教師の説明が分かった」及び「授業を受けて役立った」と回答する生徒は、半数以上を占めた。

自由記述欄についてはアンケートに記入する生徒が少なかった。今後の改善策としては、生徒のより積極的な回答を引き出すため①記入しやすく視覚にも配慮したアンケート作成（イラストや吹き出し付き等）、②簡易な項目の設定に工夫する、③生徒の授業参加の機会を多くし（発表等）、質問事項を必ず授業に組み込む等の方策が必要である。さらに、生徒の要望を現実的に反映できる継続的な校内研修会等の設定及び教科内での詳細な協議・検討が効果的と考える。

(2)　改善された学習指導案

①　**単元名**：３年生　政治・経済「国際政治の動向」

②　**単元の目標**

（ア）国際政治の基本的な構造を理解する。

（イ）国際社会と主権国家の関係を学ぶ。

（ウ）国際連合の基礎知識を学習し理解する。

③　**本時のねらい**

国際連合の組織と機能について基本事項を学び、国際連盟と比較して国際連合の特質と重要性を理解する。

④　**単元指導計画**

ア　国際政治の特色と動向（１時間）

イ　国際法と国家主権（１時間）

ウ　国際連合の機能（本時：１時間）

⑤　**本時の学習指導案（斜体字が具体的な改善点）**

	学習項目	学　習　活　動	指導の留意点・評価の観点
導入 10分	第二次世界大戦の終結と連合国主導による国際連合（国連）の成立	第二次世界大戦について、調べてきた生徒たちが発表する。***国際社会の秩序と平和の維持には国際協力が不可欠であることに気付く。***	第一次・第二次世界大戦の概要を復習する。 ***発問：資料の国連旗の意味を考える。*** （知識・理解）
展 開 30分	国際連盟の成立 国際連合の特質 安全保障理事会・総会・経済社会理事会・信託統治理事会・事務局・国際司法裁判所・主要専門機関の機能	国際連盟と「全会一致方式」の弱点を理解する。 国連の集団安全保障体制の特質を理解する。 五大国が国際平和の安全と維持に主要な責任をもつことを理解する。 「拒否権」のもつ意味を考える。国際連盟と国連の相違を確認する 国連安全保障理事会の強制措置を考える。 ***国連事務総長と事務局の働きを確認する。*** ***国連平和維持活動の展開事例を調べる。経済社会理事会を中心とする国連の多様な活動を学ぶ*** ***国連専門機関と補助機関を資料の図版から読みとる。***	***発問：国際連盟の所在地、加盟国、常任理事国*** 国連の所在地、加盟国等について国際連盟と比較して理解できるように留意する。 （思考・判断） ***発問：五大国の国名*** 軍事的強制措置と非軍事的強制措置の相違に気付かせる。 ***発問：ＰＫＯとは何か。*** ***発問：国連事務総長の役割・歴代事務総長の選出方法は。*** ***メディアを通して国連の活動に関心をもっているか。*** （関心・意欲・態度）
まとめ 10分	***国際連合の新しい役割と国際協力***	***国際機構としての国連の重要性、その機能と役割について、広い視野に立って考察する。そのためには様々な情報を読み解く日々の学習が重要であることに気付く。***国連に対する日本の協力について、次回まで調べる。	***国連 on line 及び外務省ＨＰ「国際平和協力をもっと知るためのリンク集」等を活用できるか。*** （技能・表現） ***重要箇所をノート又は記録用紙に記入し、整理しているか。***

⑥　**改善を図った内容等**

生徒のアンケート結果にこたえた授業展開に取り組み（分かりやすく・ポイント明示・発問を多く、生徒による発表形式等を活用）、さらに記録用紙に記入することにより、自分の問題として考えさせるようにした。

⑦　**考察**

国際社会と国連について考察し、さらに日本の国際協力の在り方について高校生が広い視野で主体的にとらえられるように指導することは、今後一層の重要性を増すと考える。

Ⅴ　研究の成果と課題

１　研究の成果

本部会では、研究成果と課題をできるだけ多くの学校に活用してもらいたいと考え、各委員の実践例を基に具体的な研究を進めてきた。

(1)　生徒による授業評価（以下、「授業評価」という。）を出発点とした授業改善について

各委員が実施したアンケート結果を分析する過程で「改めて気付かされたことが確かにあった」という感想を共有した。例を挙げれば、授業に集中できていない生徒への働きかけを積極的にすべきだと感じていることや生徒参加型の授業をやって欲しいと求めていることなどである。私たちは、こうした「生徒の生の声」を受けとめ、授業での発問や構成を見直した。また、「政経学習の記録」を用意して授業内容の記録をさせる指導などの工夫・改善を行った。

(2)　各学校の実態に即したアンケート項目の作成とその活用について

「授業評価」は、「授業の受け手」である生徒からの評価を受け、授業改善を進めるために実施される。各委員の学校では、全教科共通の汎用性の高いアンケートが主であった。だが、授業改善への活用という目的に立てば、共通項目に教科独自の項目を加えたものも考えられる。また、「授業を通じて関心をもったこと」と「自主的な学習への取り組み」を関連させて問うようなアンケートも公民科の特徴を生かしたものと考えられる。アンケート結果は、各学校での校内研修会等で分析・議論され、学校全体の課題などを明らかにすることができた。

(3)　「授業評価」と定期考査等の違いについて

公民科における知識・理解や資料活用能力、判断能力などは定期考査で問われている。一方、「授業評価」では、生徒自身がそれまでの学習の取組について自己評価できる項目と教員の姿勢や授業方法、分野ごとの興味・関心などが質問項目となる。実際のアンケートでも、教員が予想しなかった項目への興味・関心が高かった例があり、授業内容の見直しや生徒が理解しづらかった原因についての考察を深めることができた。

２　今後の課題

「授業評価」は今年度始まったばかりである。「授業評価」を基に授業改善を進めるためには、結果の活用法を含めてさらに研究を深めて工夫していく必要がある。

(1)　生徒による授業評価を生かすとはどういうことなのか

アンケートには、生徒の率直な意見が様々な形で表現されていた。「授業評価」は、授業をより良くしていくための取組である。教員の側では、生徒の回答を十分に吟味して、指導の改善につなげていかなければならない。たとえば、「とにかく楽しい授業がいい」という意見に対して、授業がどうあるべきかを考え、「真に楽しい授業とは何か」ということを示していかなければならない。このことは、公民科だけの課題ではないから、教科で改善を図ることと合わせて、校内研修会で全校的に研究協議を行って授業改善に取り組むことが必要である。

(2)　アンケート項目作成における工夫について

アンケートを実施する過程で「もっと詳しく知りたい」「一度のアンケートですぐにわかるものは作れないか」という議論があった。アンケート形式や内容は、各学校の実態に即したものとすべきだが、可能であれば枝分かれしたアンケートを作成するなどの工夫が欲しいところである。その際には事前にアンケートで問うべき事項を校内研修会等で明らかにしておくことが必要である。また、アンケート記入への意欲を高めるために、吹き出しなどを用いてわかりやすいアンケートを作ることも大切である。

(3)　生徒・保護者や地域などへの還元について

「授業評価」を行う過程で生徒自身に学習の取組を自己評価させ、アンケート結果を生徒に示して考えさせることは、授業改善を双方向で進める上で重要である。また、保護者を含めた第三者にも可能な限り情報を公開することは、授業改善と学校全体の課題に取り組むためには欠かせないことである。